

くすのき



岡本小学校 学校だより

No.11

令和3年10月20日

『生き生き学校』



《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成

明日も楽しい学校

夏休み後初の長休み時間が、10月14日(木)にありました。感染症対策のため、特別な時間割を組んでいたのが久々の長昼休みです。グラウンドには、子どもたちの歓声が飛び交い、心も体も解き放たれて嬉しそうに飛び回る子どもたちと教師の姿が見られました。心が解放され、鬱屈した気持ちやストレスを吐き出すことができる自由時間は、子どもの成長にはなくてはならない場面です。体育フェスティバル終了までは、地域ごとの時差登校及びサーマルカメラによる毎朝の体温測定は継続しますが、感染対策をしながら通常の学校生活に戻していきます。

政府の統計によると、小・中・高校生の自殺者が昨年は415人でした。前年より100人近く増加しています。コロナ禍により家庭や学校の環境が大きく変わり、それに伴って子どもたちの行動も制限されていることが大きく影響しているのではないか、という専門家もいます。

2学期は、体育フェスティバルを皮切りに野外教室や修学旅行、校外学習など、学校行事が目白押しです。子どもたちの「やってみよう」気持ちを大切にしながら、明日も楽しい学校づくりを進めていきます。

作戦会議1～なかよし班～

10月18日(月)、なかよし班会議が行われました。議題は、体育フェスティバルの「力を合わせて！大つなひき！」の作戦会議です。

5年生と6年生がリーダーとなり、やり方やルールの説明を行いました。「綱を持つとき間隔を2mあける」というのは、感染対策のための新ルールです。

その後、「どんな順序で並んだらよいか」「どんなふうに綱を引くとよいか」について、チームで作戦を立てました。

跳び縄用の長縄を綱に見立て、実際に引き方を伝えているチームもあり、5・6年生の準備のすばらしさを感じました。

今週は実際の綱を引く練習をしてみます。練習時間は5分と短いですが、この体験が次の作戦会議にどう活かされるか、今から楽しみです。



手づくり模様で意欲満々

10月13日(水)・14日(木)に、6年生が藍染Tシャツを作りました。思い思いの場所に模様を作りましたが、実際に染料に入れてみないことには、どんな模様に仕上がるかはわかりません。恐る恐るTシャツに藍色を染み込ませる瞬間、そしてどんな具合に染まったか確かめる瞬間、子どもたちの表情は程よい緊張感でキラキラ輝いていました。これぞ、リアルな体験です。

小学校生活最後の体育フェスティバルでは、世界に一つしかないこの手作りTシャツを着て、表現運動を発表します。6年生の意欲が高まっています。



初校外学習

10月14日(木)、1年生が生活科の学習で要定川ふれあい公園に出かけました。緊急事態宣言がやっと明け、初めての校外学習です。出かける前の「校長先生の話」の中で、「よく学び よく遊ぶ」という言葉を教えました。

2時間後、さぞかし遠くまで歩いて疲れたらと思うきや、

「校長先生、たくさんドングリとれたよ！」

「見て見て！ コオロギ捕まえた！」

と、どの子も目を輝かせてお土産話を聞かせてくれました。

きょう、どんぐりひろいで、みんなといっしょに いったのが うれしかった。またいきたい。Mさん



初オンライン工場見学

10月6日(水)、5年生がオンラインで自動車工場を見学しました。これまでは、県内の自動車工場に実際に出向いていましたが、コロナ禍により実際の見学が厳しくなり、オンライン見学に切り替えました。実際の見学ではなかなか見ることのできない場所にカメラが設置されていたり、案内をしてくださる社員の方との一体感を味わえたり、1時間の見学があっという間…オンラインの良さを十分に味わうことができました。

「20年後、車社会はどうなっているだろう？」そんなことに思いを馳せている子どももおり、将来への夢が広がりました。

車の95%以上がリサイクルされることを知り、感心しました。このことを通して、ぼくも環境を良くするように生活したいなと思うようになりました。Kさん



わたしのひとりごと…

数十年前、自分の子どもを初めて身ごもったとき、先輩お母さんから教えていただいたことがあります。「子どもにとって母親は太陽のような存在。だから笑顔でいることが大切だよ。」

おなかの中で日々大きくなっていく我が子の誕生を心待ちしながら、その言葉をかみしめていました。しかし、子どもが生まれ、1年経ち2年経つうちに、私から少しづつ笑顔が失われていきました。

思い通りにいかない子育てに悪戦苦闘していました。今思えば、「いつも笑顔でいなければいけない」「いい母親はこうあるべき」と、自分自身にプレッシャーをかけ続けていたのだと思います。

2か月ぶりに絵本の会が再開されました。絵本ボランティアさんの人数を絞り、感染対策をして3学年ずつの実施です。あるクラスで、『あつかったら ぬげばいい』(著・ヨシタケ シンスケ)という絵本の読み聞かせをしていました。私も教室の後ろで、聞かせていただきました。

「あつかったら ぬげばいい」

「へトへトにつかれたら はもみがかずに そのまま ねればいい」

こんな感じで続いていきます。読み進められていくうちに心があたたかくなり、最後はとても優しい気持ちになりました。

「笑顔になれなかったら、・・・」

ヨシタケさんだったら、どんな向きを考えるだろう。笑顔になりたくても、どうしても笑顔でいられないときがある。母親だって人間だもの。私だったら…。

「笑顔になれなかったら、明日1日は自分のために時間をつかおう」

子どもに笑顔を向けたいのなら、自分の心を元気にすることが一番だと、今なら迷わず思えます。

